

リオ＋20 成果文書交渉の現状(1)

総論

(1章, 2章)

- G77(途上国グループ)は、貧困撲滅が重要であり、過去の国際社会のコミットメントの実施が不十分との立場。CBDR(共通だが差異ある責任)原則を強調。
- 先進国は未来指向のコミットメントを求める。CBDR原則の特出しに反対。
- 我が国は、特に、過去20年における国際社会の主体の多様化、人間の安全保障の重要性を主張。

グリーン経済

(3章)

- G77は、グリーン経済は選択肢の一つに過ぎないこと、グリーン経済への移行は先進国からの財政、技術面での支援が前提であることを主張。
- 先進国は、途上国も含めたすべての国がグリーン経済へ移行すべきこと、知識共有のためのプラットフォーム(ツールキット)の必要性を強調。
- 我が国は、特に、技術・イノベーションの重要性を強調。

制度的枠組み

(4章)

- 持続可能な開発理事会(SDC)の創設:我が国、米、カナダは否定的な立場。EUは立場未定。G77は、ハイレベル政治フォーラムの設置を提案。
- UNEPの強化: EU、アフリカが専門機関化を主張しているが、米、カナダは極めて慎重。我が国は専門機関化を長期的に視野に入れつつ、段階的な取組みを提案。

リオ＋20 成果文書交渉の現状(2)

行動枠組みと フォローアップ

(5章)

- 分野別の取組(食料、水、エネルギー、海洋、気候変動、生物多様性など20あまり): 我が国は防災、持続可能な都市分野等で積極的に提案。
- 持続可能な開発目標(SDGs): 策定プロセスを立ち上げること自体に異論はなく、成果の一つとなる見込み。SDGsが2015年以降の開発目標に統合されることにも一致がある。SDGsの具体的分野、とり進め方については様々な立場あり。
- GDPを補完する指標の開発: 先進国は支持しているが、途上国が反対。

実施手段

(6章)

- 資金、技術移転の新たなコミットメントについては、G77と先進国で立場が大きく乖離。
- 途上国は2013年から17年まで毎年300億ドル以上、2018年以降は毎年1000億ドルの資金提供を求めたが、先進国は反対。